

## 不毛の議論を避けよ

JJ1SXA/池

7月27日、いよいよ安全保障法制が参議院で審議入りした、衆議院の議論と同じで、全く不毛の議論に明け暮れるのかと思うと憂鬱になる。

野党民主党は、国民の意見を盛り上げて廃案に持ち込むと意気込んでいる、中国の脅威に目を背けるものではないか、安全保障法制は、今、日本に取って待ったなしの状況と言う感覚が無い、憲法違反だ、やがて徴兵制になるなどと叫んで国民に不安感情をあおっているが、本当にそれで良いのか、そんな情緒論を持ち出しての反対は、社民党、共産党だけで沢山だ。

池田信夫氏は、…鳩山・菅時代の民主党はひどかった。「最初に岡田首相になっていれば、民主党政権ももう少しもったかもしれない」という人も多かったが、岡田氏も同じだとわかった。残るのは細野豪志氏ぐらいだが、彼も「徴兵制になる」などという与太話をしているようではどうにもならない。本来は2003年に民主党と自由党が合併したとき、党の路線を徹底的に討議し、自民党に対抗できる政策を立てるべきだったが、合併を主導した小沢一郎氏がバラマキ福祉に舵を切り、政権につくと辻元氏のような社民からの難民が入り込んで左傾化が強まった。率直に言って、民主党に再建の可能性はない。唯一の政策が「憲法9条を守れ」では、土井たか子の社会党と何も変わらない。まともな議員も少しはいるが、辻元氏のようなゴミが多すぎて、「民主」の看板を掲げているだけで信用されない。維新と合併しても、1割そこそこのすきま政党だ。…と、民主党及び岡田代表等を痛烈に批判している。

そもそもが、戦争法案などと言うこと自体がおかしな話だ、国会に提出されたのは、我が国及び国際社会の平和及び安全の確保に資するための自衛隊法等の一部を改正する法律案で、「平和安全法制整備法案」と、「国際平和支援法案」だ。

平和及び安全の確保のための法案を「戦争法案」と名付けて得意がる福島瑞穂は、出自はともあれ、日本人を名乗るなど言いたい。

そして、国会の審議だ、平和安全保障研究所理事長の西原正氏は、…安全保障問題をあまりにも開けっぴろげで議論しており、これで本当に安全保障政策が維持できるのか不安になる。一国の安全保障政策とは、軍事的脅威に対して最悪の事態を考慮して対応策を練っておくことである、その対応策を準備するにあたっては、敵性国に知らしめない機密の部分を保っているものでなければ、効果ある政策にはならない。安全保障政策の議論には、国民の理解を深めるためにもできるだけ高い透明性が必要であるが、同時に政策の有効性を高めるためには一定の機密性も必要になる、国会議員が戦略感覚をもって法案を審議してくれることを念じたい。…と述べる。

国会議員は、国の命運を左右する事態、および国民の生命財産を損なう事態に対応できる知見に裏づけされた識見、責任感、使命感を持って。 (29,Jul,2015 記)